

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1275800116		
法人名	医療法人社団 阿伝の会		
事業所名	グループホーム杜の街		
所在地	千葉県大網白里市南飯塚404-11		
自己評価作成日	平成26年3月10日	評価結果市町村受理日	平成26年5月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2丁目10-15		
訪問調査日	平成26年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者個人の生活ペースを尊重し、その方の力を活かした支援を心がけている。なかでも農業経験者が多く、本格的な畑づくりを行い、利用者職員で栽培収穫をし、自然に親しむ生活を送って頂いている。
 ・昔からの四季の折々の行事を生活の中に取り入れている。みそづくりや、梅干し、たくあん漬け、干し柿など、利用者の知恵と経験を活かして作り、食事の楽しみとしている。また、書道や絵画など個々の趣味や特技を取り入れたアクティビティを実践し、利用者が張り合いのある生活を送れるよう支援している。・利用者の状況や希望に沿ったケアを心がけ、重篤な状態になっても最期まで自分の居室で過ごせるように訪問看護ステーション杜の街との医療連携を充実させ、利用者の安心に繋げている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「人間愛の尊重」や「利用者の自立支援」など5項目を理念と掲げている。管理者は、利用者の力を活かして生き生きと生活できることを、理念を実践する上で最も大切な事と考え、職員意識の向上に努めている。苑内の広い菜園では、利用者が携えてきた農業の専門的技術や経験を活かし見事な野菜が育てられている。野菜を皆で収穫し、食卓にのせて楽しむという日常の営みが、利用者の生活に刺激を与え大きな満足感に繋げている。また、ふれあいまつりに出品する実用的な作品創りは、趣味の一環としてではなく一歩進んだ取り組みとして利用者の生活に目的意識と充実感をもたらせている。生活場面では、3ユニットがそれぞれに個性的で、異なった活気や和らぎを感じた。医療連携を確立し、利用者や家族が安心して暮らせるよう、理念に沿った取り組みが着実に実行されていることを評価したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型の意義をふまえた理念を作っている。職員用トイレや廊下に理念を掲げ、常に目を通し実践につなげている	ホームの理念として、5項目が掲げられている。利用者が地域でその人らしく暮らしていけるよう支援する中で、理念の実践に努めている。月1回のカンファレンス時に、理念についての考え方を伝え職員の理解と共有化を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に積極的に参加したり、近所のスーパーにで買い物をして近隣の方と話す機会を作るなど、日常的な交流を心掛けている。市内の子供のボランティア学習や、生涯学習の見学など積極的に開放している	買い物や散歩時等、普段からのふれあいを大切にしている。地区のふくしまつりには利用者手作りの作品を出品し、地域との関係作りに努めている。小中学生の職場体験学習や、夏祭りでの地域住民との交流は利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市内の小中学生のボランティア体験や、生涯学習の見学を受け入れている 随時相談等を受けつける体制を取っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者にも参加して頂き、意見交換を行い家族の意見や要望をサービスに活かしている。参加者と様々な意見交換を行い、カンファレンスで検討し実践している	運営推進会議は定期的開催され、市職員、家族、地域住民等が参加メンバーである。会議録からは、テーマとして地域におけるグループホームの役割、福祉施設と防災、祭り等が挙げられており、活発な討議が行われ運営に反映されていることが確認できた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時連絡を取り合っている。運営推進会議等で意見を頂いている	市高齢者支援課とは更新時の代行申請等で連絡を取り合っている。また、運営推進会議に市職員が参加しアドバイス等を受けるなど、協力関係を築いている。市主催のケアマネジャー研修会に参加し連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が一丸となって身体拘束をしないケアに取り組んでいる。緊急かつやむを得ず身体拘束となる行為を行う場合は、家族の同意を得て、期間を区切って行っている	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。ベッドの柵等の使用については、やむを得ない場合は家族の同意を得ているが、使用は限定的である。「ダメ」等の言葉による抑制については、カンファレンスで具体例を挙げて話し合い、身体拘束ゼロのケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社会情報や資料をもとにカンファレンス等で話し合い、意識を高めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料をもとに学習し、利用者が制度の活用を必要としたときは、関係者と連携を取って支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を十分にとって説明し、疑問点は随時対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や交流会など機会を設け、日常的にも意見を伺う機会を作っている。苦情相談窓口を明確にし、訪問時や電話等いつでも応対している	利用者や家族の意見・要望は、職員が積極的に声掛けを行い把握に努めている。得られた情報は日誌や独自に様式が工夫された「個々の記録」に記され、職員間の共有化が図られている。意見や要望は管理者とリーダーが話し合い、運営に反映させている。	交流会には家族の3割程度が参加し、意見を交換できる場となっている。家族からは、メールの活用等連絡方法の改善についての要望が寄せられている。より多くの家族とのコミュニケーションが図れる取り組みが期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスで意見交換をするとともに、月一回の法人内の運営会議において検討し、日常業務に反映させている	職員からの意見や提案は、リーダーから管理者へと受けていく仕組みが構築されている。課題はカンファレンスで検討され、運営に反映されている。行事の企画運営に関しては、担当者を決め話し合っってアイデアを出すなど、職員が役割をもって参画することが求められている。	理念5項目を各所に掲げ、その実践に努めている。職員一人ひとりが、それぞれの項目に沿った行動がとれているかを振り返り、話し合う機会が持てる様な取り組みが望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己考課表を用い自己評価を行って、賞与等に反映させるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	カンファレンスにてケアの向上を目指す議題を取り上げ研修を積んでいる。スキルアップを図るために多くの職員が平等に研修を受けられるよう改善を図りたい		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のケアマネージャー研修会に出席したり、他のグループホームとの合同夏祭りや同法人の看護師の指導で勉強会を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意向を重視し、時間を十分にとり聞き取りを行っている。また初期の段階では、気がついた点を細かく記録し職員全員で共有している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の希望や意向を聞き取ったりアンケートをとっている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の現状の把握に努め、グループホームでできること、他のサービスが必要ならばその導入について考えている。担当のケアマネージャーや利用サービスの担当者と相談しながらその人にあつた対応をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	教えて頂く機会や、共に楽しみ喜び哀しむ関係を築く努力をしている。掃除や食事づくりなど出来ることは一緒に行い、本人の力を活かした生活を支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にして、行事へ参加していただいたり、病院の受診をして頂いている。心身の変化や、行事など報告・連絡をこまめに行い、面会時には時間をとって話し合うようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙で連絡を取り合っており、家族友人が気軽に面会が出来るように支援している。馴染みの地域へのドライブや馴染みの店での買い物支援している	理容室やJA等利用者が馴染みとしている店や場所には、継続した利用を支援し関係の継続に努めている。手紙や絵手紙、携帯電話の利用を手助けし、関係が途切れないよう支援している。以前住んでいた場所や実家等へ、外出を兼ねて訪れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの関係性を把握して職員が間をとりもったり、一緒に作業したりすることでお互いが支え合う関係を持てるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院ご退所されたり、お亡くなりになったときなど手紙や電話で様子を伺ったり、必要に応じた対応をしている。また、行事の案内を送付したり手紙を出して、関係性を大切にしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の様子や、本人・家族などから意向や希望の把握に努めている。個々の生活を重視し、気がついた点は申し送りを確実にし職員が共通理解に努めている	食事は何が食べたいのか、天気のいい日にはどこに散歩に行きたいのか等声掛けを励行し、意向の把握に努めている。「覚え書き帳」に利用者の生の言葉で個別に記録し、職員間で共有化している。要望を声にできない利用者には、表情や様子をよく観察し、こういうことをしたら笑顔が見られと「個々の記録」に残し、利用者が心地よく過ごせるよう職員が共通の理解をもって支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや今まで知りえた日常の情報を職員間で共有し、足りない部分は追加するなど職員間での共通理解に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の一日の過ごし方を記録し、職員間で共有し、その人の持つ力の把握に努めている。変化があった時は申し送りを確実にし、現状把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行うとともに、必要に応じて本人・家族と話し合い、気づきなどの記録を徹底し介護計画に反映させている。変化があった時は、必要関係者と話し合い、適正なケアが実施出来るようにしている	カンファレンスで、利用者の生活歴や大切としたものが記録された資料をもとに、個々のケアについて職員間で話し合い評価を行っている。カンファレンスの結果をもとに、利用者・家族の思いをよく聞きとって、ケアマネジャーを中心として、チームで現状に即した介護計画の作成にあたっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	時間をおって本人の生活の様子とケアの連動性を記録している。情報を共有し、課題の検討や反省の材料としている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の要望や状態を把握し、柔軟な対応をするべく情報を収集し、心身の状況に応じた必要な対策の実践につとめている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの導入など、地域資源を活用し生活の幅を広げている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医を受診している。必要があれば専門医を受診している	かかりつけ医に家族の付き添いで受診しており、受診情報はホームと共有されている。利用率の高い整形外科は、定期的に往診を受け薬を処方して頂いている。皮膚科・眼科・泌尿器科等には専門医にて受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	早期に対応できるように、日常より訪問看護師と連携している。定期的な訪問看護師による健康チェックの他に、変化があった時は、報告・相談出来る体制を取っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は頻繁に面会をし現状を把握するとともに、ソーシャルワーカーや主治医との話し合いの場を持っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化または看取りの指針を提示し説明をしている。本人・家族の希望を聞き取り、グループホームでできることを理解していただいた上で訪問看護・主治医と連携して支援している	入居契約時に利用者・家族の将来的な希望を聴き取り、「重症化・看取りの指針」を説明してホームでできる事を充分理解して戴いたうえで、訪問看護・主治医・職員と連携を取りながら支援している。協力医療機関との連携に努め、24時間体制で支援している。昨年度は5名の方の看取りを経験した。厳粛な看取りの瞬間を経験し、感謝の気持ちで職員は最期の見送りをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファレンスで、初期対応について訪問看護師からAEDの取り扱いや救急処置などの指導を受け、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を通し、速やかな避難誘導の方法を身につけている	「防災訓練実施要綱」に則り、消防署指導による避難訓練を年2回実施している。夜間想定訓練も実施した。IH使用だが、電気器具の老朽化、消火器具の点検を定期的実施している。仏壇の灯明等は電気式のものを使用し頂く等、ホームが火元にならないよう最大の注意を払っている。非常時に備えた食糧・水も備蓄もしている。	第一避難地点とする中庭へ3ユニットの利用者全員を無事避難させるためには、職員全員が誘導の習熟度を上げる必要がある。計画的に避難訓練の頻度を上げられるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	温かみのある言葉づかいと声のトーンに気をつけて、個々に合わせた声かけを心がけている	単にマニュアルに沿った丁寧な言葉遣いではなく、その人に適した心の籠った温かみのある言葉で接し、人格を尊重するよう意識付けを行っている。出身地に応じて地方の方言なども使うようにしている。また、利用者の自尊心を導き出す言葉の引き出しを多く持って、適宜使えるよう工夫し、利用者が誇りをもって暮らせるよう努力している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の様子を日々把握し、十分に時間をとってどちらがいいですかなど選択肢がある声かけに工夫し、本人の思いを自然に引き出すよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の生活リズムやその日にしたいことを優先してケアにあたっている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に買い物に出かけ、好みの化粧品や季節に合った服などを購入している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の形態や、好き嫌いなどを把握し、毎日の食事が楽しみとなるよう、本人の好み・習慣を優先している。利用者が得意なことを活かし一緒に作ったり、片付けも力に応じて一緒に行っている	食を楽しめるよう、食事の形態や嗜好を良く把握する事、また職員と一緒に食事する事の2点を最重要ポイントとし、食事が提供されている。苑内に広い菜園があり、植え付け・手入れ・収穫の喜びを職員とともに享受している。調査訪問日の昼食は、利用者の得意とする餃子を職員と共に作っている。職員の巧みな働きかけで、食事中も利用同士の会話と笑いが絶えない賑やかな食事風景が展開されていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じて、食事・水分量をチェックし、食が進まない場合は、好みのものや間食で補うなど、トータルで支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状況に応じ、声かけや介助により清潔を保つ支援を心がけている。希望により訪問歯科による口腔内清掃を受けているケースもある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状況に応じて声かけや介助を行い、失敗を減らす努力をしている	排泄チェック表等を活用して、適時声掛けや介助をおこない、トイレでの排泄の自立支援をしている。入居歴が長く車イスの利用者も増えてきており、車イス対応のトイレも使用されている。居室には必要に応じてポータブルトイレも準備されている。排泄の自立支援を継続実施する事によって、入居後にオムツが不要となった嬉しいケースも多く経験している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、乳製品や食物繊維の多い食事作りを心がけるとともに、散歩や運動をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や希望に応じた対応をし、入浴嫌いな人でも気持ち良く入って頂けるよう、時間にとらわれず入りたい時に入浴できるようにしている	希望に応じ午前・午後の入浴が可能なよう対応している。入居歴が長く要介護度の進んでいる利用者が多くなって、入浴介助や細心の見守りが必要な場面が少なくない。入浴拒否には声掛けやタイミングに工夫を凝らし誘っている。また、「名湯」の入浴剤も時に使用し気分の転換を図っている。浴室にも暖房設備を完備して温度差への配慮もなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常のリズムを把握し、個々の状況によって仮眠をすすめている。また、体調や気候に配慮して空調の調整をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬状況と内容を把握し、特に変化があった時などは注意深く見守っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手芸、園芸、体操、歌、時代劇など個々の楽しみを把握し、利用者個々に合わせたレクリエーションや外出、役割をもった生活を送れるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力を得ながら、外食やドライブなど本人の希望に応じ出かけている	各ユニット毎にリーダー・職員が協力して、2～3人毎に散歩や中庭・菜園・あずまや周辺での日光浴を楽しめる支援を行っている。畑での手入れや収穫なども利用者にとって楽しい外出となっている。車イスの利用者にも職員付き添いで実施している。以前住んでいた場所や馴染みの所へは家族の協力でドライブがてら出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の力に応じお金を所持したり、買い物時等の支援をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話やグループホームの電話で家族知人と話をしたり、季節の手紙を出す支援をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	植物や壁飾りなどで季節感を演出し、空気清浄機や空調で居心地の良い清潔な空間作りを心掛けている。	ホームは建屋を3角形に配置した、独特の建築様式となっている。共用空間は広さ・明るさなど充分配慮され、バザー出品の利用者の作品や写真、季節を感じさせる花の鉢植が適所に配置されている。利用者同士の相性を充分把握し坐る位置関係に気を配り、和気藹々とした素晴らしい空間作りが行われている。清潔保持のためのホーム内外の清掃には、利用者が積極的に参加している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングを有効的に活用し、食堂や居間など皆で集まったり、各自で過ごしたり自由に過ごせるようにしている。お互いの居室で談笑したり、一緒に休んだり思い思いに生活できるよう支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や、安全に配慮した設置を心がけ家族やペットの写真を置いたり、仏壇を置いたりしている。個性を重視し、面会の多い方の居室にはテーブルを設置するなど工夫している	居室内の大型の押し入れは暮らし続ける利用者にとっても家族にとっても、有り難い収納場所となっている。仏壇等思いの品物を自由に持ち込んでいる。空調管理も行き届いており清潔で過ごしやすい居室となっている。自分の部屋は自分で掃除している利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや車椅子用トイレを配備し、居室も本人がわかるように工夫して、自立した生活を送ることができるよう配慮している。		